

5. 甲信越（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (甲信越)		その他サービス 〔葬祭業〕（経営者）	お客様の様子	・10～12月とコンスタントに葬儀が入っている。客は葬儀費用に関心があるようである。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・今、新学期等の子供たちの学校注文を受けているが、毎年のように数は出ている。子どものことなので、親はボーナスも出たりと何か良いような感じで、注文数が出てきている。
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・12月はクリスマス、年末ギフト、おせちと、いろいろイベントがあり売上増につながる企画があったので、例年とほぼ同じだが、3か月前と比べると良くなっている。
		家電量販店（店長）	来客数の動き	・キャッシュレスサービスの利用フェア等の特別需要があり、売上が押し上げられている。
		自動車備品販売店（経営者）	来客数の動き	・12月らしい降雪と寒さにより、冬季商材の需要が高まっている。
		観光型ホテル（支配人）	来客数の動き	・国内ツアー客の動きが、多少ではあるものの、良くなってきている。
		都市型ホテル（支配人）	お客様の様子	・クリスマス、年末商戦の影響か、駅前には買物袋を持った客が増えている。また、飲食店も混んでいる。
		都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・人の動きはさほど変わらずに推移していたが、今月に入り、少しずつフリー利用が増えてきている。天候が安定し、例年より気温が高かったことも要因としてあるようである。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・年末に入り暖冬の影響で、店は忙しい状態が続いている。美容業界も慢性的に従業員雇用が非常に難しくなっている。忙しい割には客単価が上がらない。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・年末のお歳暮商戦は店頭承りが減り、インターネットでの注文が確実に増えてきている。
		一般小売店〔家電〕（経営者）	お客様の様子	・どちらかと言えば過ごしやすい今年の冬は、季節商材の動きは良くない。4Kテレビ放送も始まったが、番組数の中途半端さ等もあり、動いていない。消費者の購買意欲を出させるにはほど遠い。
		一般小売店〔家電〕（経営者）	販売量の動き	・年末にもかかわらず、客の動きが余り良くなく、ボーナスによる購入も見受けられない。
		百貨店（売場担当）	お客様の様子	・大きな顧客動員イベントの結果、今月は好調に推移したものの、月末になり失速している。しかし、暖冬と言われ、防寒物が不調と懸念されるなか、重衣料は前年並みに売れている。これも、来年の消費税増税の影響が、少なからずあるのかもしれない。
		スーパー（経営者）	来客数の動き	・降雪が少なく鍋物商材が売れない。野菜、豚肉も安い。
		スーパー（経営者）	来客数の動き	・クリスマス、年末年始と大きなイベントもなく、普通である。大型スーパーは稼ぎ時だろうが、小規模スーパーでは、冬場に向けて来客数は少なくなる。
		コンビニ（エリア担当）	お客様の様子	・消費税増税を控え、消費は縮小傾向である。その反面、小売販売店の店舗数は増加している。各店の売上や利益は目減りするだけである。
		コンビニ（店長）	お客様の様子	・前年と比べると大分悪いが、2～3か月前とそれほど状況が変わっておらず、余り変化はない。天候の違いで、客の購買力が若干変わるくらいなもので、特別大きな変化はない。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・消費税増税前に新車を買換える動きが、増えてきている。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・車検、一般整備は堅調だが、車両販売は12月としては低迷している。冬物商材は売上にプラスアルファとなっている。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・既存の飲食店では、ここ数年、忘年会シーズンにもかかわらず、目立った動きが感じられない。
	スナック（経営者）	来客数の動き	・来客数の動きと回答した。客の様子とどう違うのかよく分からないが、いずれにしても景気は良くない。何か良い方法はないだろうか。	

	旅行代理店（副支店長）	競争相手の様子	・募集旅行の集客が悪く、特に、国内旅行の動きが鈍い。上期の自然災害等で取りやめになった旅行等の戻り客を期待したが、動きは少ない。同業他社の状況も同じで、前年比で70～80%にとどまっている。	
	タクシー運転手	販売量の動き	・平成30年度に入って前年を上回った月は1月もなく、前年比、最低で90%、良くて99%である。平均すると95%前後である。	
	通信会社（経営者）	お客様の様子	・4K、8Kテレビ放送がスタートしたが、客の反応はほとんどない。	
	遊園地（職員）	来客数の動き	・料金の変更やタイアップ企画及び期間限定イベント等の集客施策を実施し、3か月前と同様に来客数の動きは好調である。	
	設計事務所（経営者）	来客数の動き	・年度末までの計画がいくつも重なり進行しているので、仕事量は多い。	
	住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・別荘見学はあるものの、成約には結び付きにくい。	
	商店街（代表者）	来客数の動き	・歳末売出しという言葉は、いまや死語に近い。今年もあと僅かというのに、ふだんの人通りと変わらず、街に年の瀬という雰囲気は、全くない。	
	百貨店（店長）	販売量の動き	・暖冬の影響もあり、主力の衣料品、特に重衣料の動きが悪い。クリスマスなどのオケーション関係の売上も年々落ちている。モノからコトへの消費傾向は小売業にとっては、非常に難しい。	
	スーパー（経営者）	競争相手の様子	・競合店のチラシ広告回数は、かなり増えており、各社の状況が悪いことを表している。野菜の価格下落も大きな要因である。	
	スナック（経営者）	来客数の動き	・前年の忘年会シーズンは、かなり来客数が多く売上もあったが、今年はそれほどではなく、前年割れである。イベントなども、いろいろ仕掛けているのに余り効果はない。	
	観光型旅館（経営者）	販売量の動き	・秋は比較的好調だったが、12月は余り良くない。忘年会も予約や問合せは割とあったものの、どれも予約だけで消えてしまう。最近は飲酒運転に厳しい目が向けられているので、宿泊ができたり、送迎もできる旅館での忘年会が有利になるのではないかと考えていた。しかし、現状はお酒のトラブルを未然に防ぐため、忘年会そのものをやめてしまう方向に動いており、忘年会需要が激減し、年々12月は厳しい状況となっている。	
	都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・クリスマス、年末商材であるクリスマスケーキ、パーティセット、おせち等の販売量が、全て5%落ちている。	
	×	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・当店は紳士服、スーツの販売が主であるが、客は「景気も良くなり、衣食住のうち、食は下げられず、住は消費税増税前に何とかしたい。そうなると、衣は購買意欲が湧かず、一番最後である」と言っている。
企業 動向 関連 (甲信越)	-	-	-	
	食料品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・最繁忙期を迎えて、売上は前年同月を上回り、計画もほぼ達成しそうな勢いで、利益も期待できそうである。	
	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・大きな変動はないものの、一部の部品の入荷が悪く、生産が遅れることもある。	
	その他製造業 [宝石・貴金属]（経営者）	受注量や販売量の動き	・11月末から12月初め、香港で開催された宝飾展示会は不調であった。9月の同地での展示会も低調であったことから、中国頼みの卸販売にも先行きに不安が出てきている。国内は歳末セールも集客難で低調である。国内の宝飾マーケットはいまだ回復できていない。	
	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注量、金額は余り変わっていないが、冬季に入り量的に若干少なくなっている。	
	新聞販売店 [広告]（総務担当）	受注量や販売量の動き	・今月のチラシ出稿量は、前年比89.5%と、12月としては大きく減少し、年間を通して同91.6%と、低迷している。夜の飲食関連は、暖かかったことや好天に恵まれ、順調だと聞いている。	

		窯業・土石製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・特注品、店頭販売品共に、受注量は減少している。クリスマス向けイベントも期待外れとなっている。
		金融業（調査担当）	取引先の様子	・製造業受注は高水準にあるものの、一部で米中貿易摩擦の影響などによる受注減がみられる。
		金融業（経営企画担当）	取引先の様子	・米中貿易摩擦等の要因から、世界景気の減速懸念が台頭してきており、工作機械を中心に需要が減少してきていると感じている。
	x	食料品製造業（製造担当）	それ以外	・原材料価格が上がり、その他資材も値上がりし、人件費も上がっているが、商品原価を上げられないため、財務状況は厳しい。
雇用 関連 (甲信越)		-	-	-
		職業安定所（職員）	求職者数の動き	・有効求人数は今年1月から高水準をキープしている。一方、有効求職者数は7月以降の減少傾向が継続している。
		人材派遣会社（営業担当）	それ以外	・3連休の百貨店等の買物客を見ていると、前年同時期と比べても人が少なく、店の担当者に聞いても売上が伸びていないとのことである。客に購買意欲がないため、財布のひもが固いのだろう。
		求人情報誌製作会社（経営者）	求人数の動き	・求人数は変わらず堅調ではあるものの、福祉関係や飲食店等は、応募者が特に少なく、採用に至るケースも少ない。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人は全体で前年比3.7%の増加である。人件費、資材原材料費、物流コストの上昇から、必ずしも収益に反映されない状況が続く。また、多くの事業所で人手不足が懸念事項となっている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求職者数、求人数共に、3か月前と比べて減少しており、有効求人倍率も1.66%と0.01ポイント低下しているが、ほぼ同水準であることから、景気に大きな変動はない。
		民間職業紹介機関（経営者）	求人数の動き	・アルバイト、パート等の採用が充足しないため、正社員への切替えが目立ち始めている。ただし、正社員の採用基準を下げないため、採用は未達となっている。
		-	-	-
	x	-	-	-